

【科目名】	総合作業療法学	専門分野(2単位)	【講師名】 櫻井直人(作業療法士):医療機関にて17年実務経験 沢田泉紀(作業療法士):医療機関にて12年実務経験				
【講義期間】	3年次後期		【対象学生】 第3学年 作業療法学科				
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 ~ (他時間割参照)				
授業 内容・目標	作業療法の主要な研究方法について学ぶ 3年間で学んだ作業療法に関する知識を復習する						
前提知識	作業療法に必要な検査・評価方法の理解						
【実施形態】	講義(○) 演習() 実習()						
到達目標	研究に必要な基礎知識を習得し、具体的な研究計画を立案出来るようになる 作業療法に関するすべての知識を修得する						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解		○				
	思考・推論	○	○				
	実践・表現	○	○				

授業計画				
3付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	研究倫理、研究法の概論、EBM、研究の種類 シングルケースのデザイン	臨床研究に関する倫理指針、エビデンス、調査研究、事例研究、実験研究 症例研究と症例報告(ABデザイン、ABAデザイン、ABABデザイン など)	櫻井
	2	国家試験対策①	作業療法の総復習	沢田
	3	国家試験対策②	作業療法の総復習	沢田
	4	データの区分(尺度の種類)	質的尺度(名義尺度・順序尺度)、量的尺度(間隔尺度・比率尺度) データの信頼性と妥当性(バイアス)	櫻井
	5	代表値、検定	代表値(中央値、最頻値、平均値 等) パラメトリック検定(t検定、分散検定)、正規分布、ノンパラメトリック検定 (Mann-Whitney検定、X ₂ 検定、Whilcoxon符号付き順位検定)等	櫻井
	6	帰無仮説と検定の手順	帰無仮説の成立 検定の手順(p値と有意水準)	櫻井
	7	研究のデザインとエビデンス	メタアナリシス、ランダム化比較試験(RCT)、コホート研究(前向き・後向き) ケースコントロール研究、前後比較研究	櫻井
	8	疫学研究(介入研究と観察研究)、検査の有効性	横断研究と縦断研究等、独立変数と従属変数、感度と特異度、スクリーニング テストの評価(ROC曲線)、疫学の定義に使われる用語	櫻井
	9	1～6のまとめと評価・研究計画書の書き方について①	確認テスト(国家試験レベルの問題) 研究計画の基礎的理解	櫻井
	10	1～6のまとめと評価・研究計画書の書き方について②	確認テスト(国家試験レベルの問題) 研究計画の基礎的理解	櫻井
	11	リサーチ・クエスションの作り方	診療上の疑問を研究可能な形にすると？ 診療研究のご法度とPECO(PICO) 研究計画書の作成	櫻井
	12	まとめと評価(卒業試験)	症例を通じて学んだ基礎知識、専門知識 作業療法を行う上で必要な知識全般	沢田
	13	まとめと評価(卒業試験)		沢田
	14	まとめと評価(卒業試験)		沢田
	15	まとめと評価(卒業試験)		沢田
教科書 参考書	国家試験対策に必要な教科書 標準作業療法学 作業療法研究法(第2版)、必修ポイント2023基礎OT学			
授業に必要な物	授業内にてPCを使用予定			
備考	必要物品については、各担当教員に確認すること			

【科目名】	作業療法管理学	専門分野(2単位)	【講師名】	橋本円(作業療法士):医療機関にて16年実務経験			
【講義期間】	3年次後期		【対象学生】	第 3 学年 作業療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	:	~	:	(他時間割参照)
授業内容・目標	作業療法士として現場で働くために、関連する制度や業務内容、管理・運営について理解する。						
前提知識	OT概論Ⅰの知識						
【実施形態】	講義(○)		演習()		実習()		
到達目標	職業倫理について理解する。作業療法に関連する倫各制度を理解する。 作業療法の記録や報告の重要性に気付くことができる。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期		第16回				
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解	○	○				
	思考・推論	○	○				
	実践・表現	○	○				

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	企業について	管理運営の実際	儀間先生 森川先生 田中先生
	2	作業療法臨床実習の理解と管理体制	変遷にみる「臨床実習」、診療参加型臨床実習、指導体制	儀間先生 森川先生 田中先生
	3	養成教育と卒後教育	養成教育制度(カリキュラム、臨床実習)と卒後教育(専門・認定制度)	橋本
	4	作業療法の理論①	ICF、基礎理論	橋本
	5	作業療法の理論②	実践理論、作業分析	橋本
	6	医療倫理	医療に関する法律、療法士法、職業倫理、インフォームドコンセント、守秘義務	橋本
	7	作業療法をとりまく諸制度①	医療保険、介護保険、診療報酬	橋本
	8	作業療法をとりまく諸制度②	障害者総合支援法	橋本
	9	作業療法をとりまく諸制度③	就労支援	橋本
	10	作業療法をとりまく諸制度④	地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメント	橋本
	11	医療の質とリスクマネジメント	医療の質(患者満足度、リハビリテーションにおける質的保障)リスクマネジメント(ヒヤリハット、インシデント、アクシデント、吸引)	橋本
	12	他職種連携と地域連携	療法士が連携すべき他職種、連携のありかた、医療現場における療法士のあり方	橋本
	13	業務管理	組織体制、施設基準、療法士の業務、組織マネジメント	橋本
	14	作業療法の記録と報告	記録の目的と種類(SOAP、生活行為向上マネジメントシート、PDCAサイクル、ジェノグラム)、記録、報告の実践	橋本
	15	総復習	作業療法管理に関する復習	橋本
	16	まとめと評価	作業療法に関する制度や業務内容、管理・運営について理解ができる	橋本
教科書 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 第3版 医学書院			
授業に必要な物	PC・プロジェクター・他 事前に確認すること。			
備考				

【科目名】	職業関連活動援助技術	専門分野(1単位)	【講師名】 高橋辰徳先生(精神保健福祉士) 沢田泉紀(作業療法士):医療機関にて13年実務経験				
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】第	3学年	作業療法学科		
【時間数】	15時間 (2時間 8回)		【時間帯】	:	~	:	(時間割参照)
授業 内容・目標	障害がもたらす職業生活の支障について理解する。 職業関連領域の評価の目的および日本における職業リハビリテーションについて理解する。						
前提知識							
【実施形態】	講義(○) 演習() 実習()						
到達目標	職業関連活動における作業療法士の役割を理解する。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)				100		
	実施時期				平時・当科目終了時		
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解	○			○	○	
	思考・推論	○			○	○	
	実践・表現	○			○	○	

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月2日	1	職業関連活動総論	職業関連活動とは、障害者の就労制度、就労移行支援事業 職業能力適性の評価 他	沢田
4月2日	2	職業関連活動総論	職業関連活動とは、障害者の就労制度、就労移行支援事業 職業能力適性の評価 他	沢田
4月7日	3	就労支援・評価について	適性検査・GATB・LASMIなど	沢田
4月9日	4	就労支援・評価について	適性検査・GATB・LASMIなど	沢田
4月10日	5	まとめ	障害者の就労制度、就労支援事業、適性検査・GATBほか(国試対策)	沢田
4月21日	6	就労支援事業の実際	グループゆうでの取り組みについて	高橋辰徳先生
4月23日	7	就労支援事業の実際	障害者の職業リハビリテーションとは、障害者雇用の現状、障害者特性と就労のポイント	高橋辰徳先生
4月23日	8	障害者就労支援の実際	職業選択と就職活動、職リハで求められているOTの専門性	高橋辰徳先生
教科書 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学			
授業に必要な物	PC・プロジェクター その他			
備考				

【科目名】	福祉・機器活用援助技術Ⅱ	専門分野(1単位)	【講師名】 伊藤彰先生(作業療法士):医療機関にて28年実務勤務 吉田翔太(作業療法士):医療機関にて14年実務経験				
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】第	3学年	作業療法学科		
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	:	~	(時間割参照)	
授業 内容・目標	・住環境支援の概念および実践(基本的知識、住環境評価・介入)について学び、理解する。 ・自助具の概念及び実践(疾患との適合、作製)について学び、理解する。						
前提知識	・各疾患の病態および症状や特徴の理解(自助具)						
【実施形態】	講義(○) 演習() 実習()						
到達目標	・住環境支援の概念を理解し、住環境評価・介入ができる。 ・各疾患に対し、自助具の適切な選定の視点を身に付ける。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		90		10		
	実施時期		13回目		終了後		
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解		○		○	○	
	思考・推論					○	
	実践・表現					○	

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月2日	1	自助具(概要・計画)	自助具についての理解	吉田
4月7日	2	自助具(作成)	自助具作成	吉田
4月8日	3	自助具(作成)	自助具作成	吉田
4月8日	4	自助具	発表	吉田
4月9日	5	自助具についての理解(疾患別)	疾患別の自助具	吉田
4月9日	6	福祉機器の理解	脳卒中患者の福祉機器	吉田
4月15日	7	住環境整備について	住宅の機能、日本の住宅の特徴、住宅が具備すべき性能、住宅改修に必要な情報、住宅改修の考え方と工夫、場所別の住宅改修の要点、	吉田
4月16日	8	住環境整備について	車いす(手動車いすの各部名称、車いすの走行に必要な開口幅、介護保険制度	吉田
4月16日	9	住環境整備の手段と基本的配慮	福祉用具(移動補助具、入浴関連用具、更衣・整容関連用具、トイレ関連用具、食事関連用具、家事支援用具、各種スイッチ、その他)、各種体験	吉田
4月16日	10	住環境整備の手段と基本的配慮、福祉機器の理解	障害別住宅改造・福祉用具、脊髄損傷の福祉機器	吉田
4月18日	11	図面作成	図面作成	吉田
4月18日	12	図面作成	図面作成	吉田
4月21日	13	まとめ	福祉機器に関連する理解	吉田
4月22日	14	福祉機器活用の実際	福祉機器とは、適合範囲、使用方法、3Dプリンター	伊藤先生
4月22日	15	福祉機器活用の実際	福祉機器とは、適合範囲、使用方法、3Dプリンター	伊藤先生
4月30日	16	まとめと評価	配布資料・授業内に実施した演習問題をよく復習しておくこと	吉田
教科書 参考書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 福祉用具学(メジカルビュー) 作業療法学全書 福祉用具の使い方・住環境整備(協同医書出版)			
授業に必要な物	PC・プロジェクター			
備考				

【科目名】	地域作業療法学総論	専門分野(4単位)					
【講師名】	鍋倉 実先生(作業療法士) 矢野直美先生(保健師) 吉野ゆい先生(理学療法士) 川崎加奈(作業療法士):医療機関にて18年実務経験 橋内 駿(作業療法士):医療機関にて9年実務経験 橋本 円(作業療法士):医療機関にて16年実務経験 角山 亮祐先生(作業療法士)						
【講義期間】	3年次前期	【対象学生】第 3学年 作業療法学科					
【時間数】	60時間 (2時間 15回)	【時間帯】 : ~ : (他時間割参照)					
授業内容・目標	地域作業療法の基本理念を学ぶ 地域作業療法における、各対象領域の実際を学ぶ						
前提知識	作業療法に関わる各論						
【実施形態】	講義(○) 演習(○) 実習()						
到達目標	地域におけるチーム医療を理解し、その中で作業療法の役割を理解する。 各論を踏まえたうえで、地域における作業療法の流れを理解し、評価や実施方法がわかる。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		30	30	30	10	
	実施時期						
	補足					グループワーク・実習	
	関心・意欲	○		○	○	○	
	知識・理解	○	○	○	○	○	
	思考・推論	○		○	○		
	実践・表現	○		○	○	○	
授業計画							
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード				講師
4月1日	1	地域作業療法総論	地域、アセスメント～マネジメント、制度・施策など				橋内
4月1日	2	地域作業療法各論①	地域包括ケアシステム、地域包括支援センター				橋内
4月1日	3	生活行為向上マネジメント①	生活行為向上マネジメント(MTDLP)とは				橋本
4月2日	4	生活行為向上マネジメント②	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー基礎編①				橋本
4月3日	5	生活行為向上マネジメント③	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー基礎編②				橋本
4月3日	6	生活行為向上マネジメント④	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー基礎編③				橋本
4月7日	7	生活行為向上マネジメント⑤	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー基礎編④				橋本
4月10日	8	地域作業療法各論②	地域生活移行(ACT:包括的地域生活支援プログラム)				橋内
4月10日	9	地域作業療法各論③	就労支援(高次脳機能障害、IPSなど)				橋内
4月11日	10	実技試験対策	精神OSCEに対する実技練習				橋内
4月14日	11	実技試験:精神OSCE	精神障害領域における評価の実践				OT学科 教員
4月14日	12	実技試験:精神OSCE					
4月15日	13	地域包括支援センターについて	地域医療の実際				矢野先生
4月15日	14	訪問リハビリテーションの実際	訪問看護ステーションの役割と訪問リハビリ①				鍋倉先生
4月15日	15	訪問リハビリテーションの実際	訪問看護ステーションの役割と訪問リハビリ②				鍋倉先生
4月17日	16	実技試験対策	身障OSCEに対する実技練習				橋内
4月17日	17	実技試験対策	身障OSCEに対する実技練習				橋内
4月18日	18	生活行為向上マネジメント⑥	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー応用編①				角山先生
4月18日	19	生活行為向上マネジメント⑦	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー応用編②				角山先生
4月21日	20	地域作業療法各論④	病院(身体機能領域、精神機能領域)、診療所(クリニック)				川崎
4月21日	21	地域作業療法各論⑤	発達と教育(学童保育のコンサル)				川崎
4月22日	22	デジリハの活用について	デジリハについて(放課後デイサービスでの活用法)				吉野先生
4月23日	23	地域作業療法各論⑥	認知症支援と在宅(終末期)				川崎
4月23日	24	地域作業療法各論⑦	介護老人保健施設、介護老人福祉施設				川崎
4月24日	25	地域作業療法各論⑧	通所介護施設、通所リハ、訪問作業療法				川崎
4月25日	26	在宅医療について	一次予防、二次予防、三次予防とは?				川崎
4月25日	27	生活行為向上マネジメント⑧	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー応用編③				角山先生
4月25日	28	生活行為向上マネジメント⑨	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー応用編④				角山先生
4月28日	29	実技試験:身障OSCE	身体障害領域における評価の実践、治療の実践				OT学科 教員
4月28日	30	実技試験:身障OSCE					
5月2日	31	まとめと評価	地域作業療法における知識の確認				橋内
授業に必要な物	PC・プロジェクター その他						
備考							

【科目名】	臨床実習Ⅱ－①	専門分野（10単位）	【講師名】 櫻井直人（作業療法士）：医療機関にて18年実務経験 OT学科教員				
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】 第 3学年 作業療法学科				
【時間数】	360時間		【時間帯】 9：00～17：00（他時間割参照）				
授業 内容・目標	指導者の元、基本的作業療法を体験し実践する。また保健・医療・福祉の各分野の職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動を身に付ける。						
前提知識	1年次から3年次までに修得した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識全般。 1年次から3年次までに修得した作業療法評価法及び治療法の知識・技術全般 1年次から3年次までに修得したコミュニケーション能力、ルール、自発的行動等の社会性や実習生としての態度全般						
【実施形態】	講義（ ） 演習（ ） 実習（ ○ ）						
到達目標	職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持つ。 1年次、2年次を通じての内容をさらに深め、基本的作業療法をある程度の助言・指導のもと行えるレベルになる。 保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他（確認試験）
	配分（％）	臨床実習 総合評価報告書 総合評価に基づく。					
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解	○			○	○	
	思考・推論	○			○	○	
	実践・表現	○			○	○	

授業計画					
	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師	
	1	臨床実習Ⅱ－①			
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
教科書 参考書	1年次から3年次まで使用した教科書・参考書類 その都度必要な文献・論文類				

【科目名】	臨床実習Ⅱ－②	専門分野（10単位）	【講師名】 櫻井直人(作業療法士):医療機関にて17年実務経験 OT学科教員全員				
【講義期間】	3年次後期		【対象学生】 第 3学年 作業療法学科				
【時間数】	360時間		【時間帯】 9:00～17:00（他時間割参照）				
授業 内容・目標	指導者の元、基本的作業療法を体験し実践する。また保健・医療・福祉の各分野の職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動を身に付ける。						
前提知識	1年次から3年次までに修得した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識全般。 1年次から3年次までに修得した作業療法評価法及び治療法の知識・技術全般 1年次から3年次までに修得したコミュニケーション能力、ルール、自発的行動等の社会性や実習生としての態度全般						
【実施形態】	講義（ ） 演習（ ） 実習（ ○ ）						
到達目標	職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持つ。 1年次、2年次を通じての内容をさらに深め、基本的作業療法をある程度の助言・指導のもと行えるレベルになる。 保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	臨床実習 総合評価報告書 総合評価に基づく。					
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解	○			○	○	
	思考・推論	○			○	○	
	実践・表現	○			○	○	

授業計画				
	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	臨床実習Ⅱ－②		
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
教科書 参考書	1年次から3年次まで使用した教科書・参考書類 その都度必要な文献・論文類			